



戦後80年非核平和事業

同時開催:大田洋子資料展

# 朗読劇「夕凧の街と人と 2025」

～大田洋子の作品より～

日時:令和7年8月9日(土)

開演 14:00 (開場 13:30)

～ 16:00終演予定

場所:廿日市市 さいき文化ホール

廿日市市津田4218番地

水と緑のまち さいき文化センター内



※写真は、2011年広島市立舟入高校演劇部公演

「夕凧の街と人と 2011」～大田洋子の作品より～の公演風景です

**入場無料・全席自由**

※整理券が必要です

**問合せ・整理券取扱い**

**電話予約可**

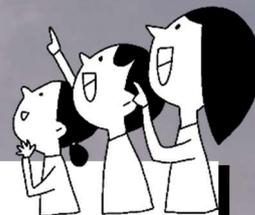
水と緑のまち さいき文化センター

☎(0829)72 - 0336

須崎幸彦 作・構成・脚色

出演:広島市立舟入高校演劇部、舟入高校演劇部 OB・OG (劇団員他)、  
地元の高校生・中学生

座談会:江刺昭子(「草籠(くさすえ) 評伝大田洋子」著者)、須崎幸彦、平本伸之



**戦後80年。**

**あの日の記憶を語り継ぐ**

さいき文化ホールでは廿日市市玖島ゆかりの作家・大田洋子の作品をテーマにした朗読劇を上演します。演じるのは舟入高校演劇部の皆さんと、OB,OG の皆さん、地元の中学・高校生の皆さんです！戦後80年。平和の祈りとともに若きエネルギーをぜひご覧ください。

**大田洋子**

原爆文学の領域を拓いた小説家。9歳のときに佐伯郡玖島村に移り住み、母親とともに15歳まで生活する。広島で被爆後、玖島に避難して代表作「屍の街」を松本商店(現在の夢工房)において執筆する。他の作品として「流離の岸」「桜の国」などがある。

**「夕凧の街と人と 2025」 あらすじ**

原爆をテーマにした芝居を取り組もうとする演劇部の練習。演劇部員である彼らは、伝統となっているテーマのために色々悩んでいる。「大田洋子」という作家の名前が、ある部員の口から挙がってくるが、誰も彼女のことを知らない。彼らは彼女の描いた世界に触れていくが…。

主催:廿日市市、さいき文化ホール運営協議会

共催:廿日市市文化協会佐伯支部、友和市民センター、津田市民センター、あさはらまちづくり交流センター、玖島市民センター

協力:FM はつかいち76.1MHz、廿日市市佐伯連合女性会